

制作概要

—私の勤める大学は、阪神・淡路大震災を引き起こした活断層の近くにありました。

しばらくして、地震を境に一変した通りを歩いている時、瓦礫の中から探し出してきたのか、壊れた赤い消防自動車を握りしめている男の子に会いました。トルコの地震のときも、汚れた人形を抱きしめていた女の子の映像があったように記憶しています。消防自動車や人形は、その子らにとっては何ものにも代え難い大切なものだったのでしょうか。

絵画や音楽など、人間にとっては生きていけないというものではありません。それなのに、人は飢えを満たすかのようにそれらを求めて止みません。

ここにも「人はパンのみにて生きるに非らず」という聖書のコトバの一面の真理があるようです。

子供にとって大切な、何ものにも代え難い赤い消防自動車や人形は、今や、私の創作の立脚点であると同時に、原風景でもあるのです。—

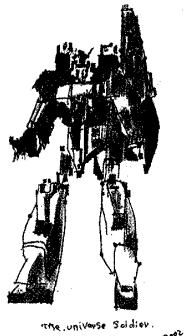
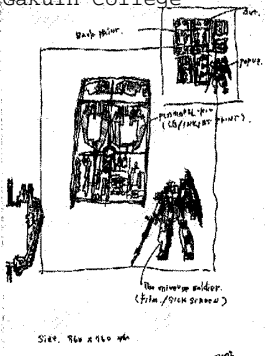
以上はトルコ地震被災者支援「こころのパン」プロジェクト巡回展の出品作に添付したメッセージです。

この巡回展はNPO国際協力アカデミーの企画で開催地はアンカラ／イスタンブール／イズミル／アンタリアの国立アタチュルク文化センター／国立絵画彫刻美術館／デイルメンデレ市などで2002年9月～2003年3月まで巡回されます。巡回後はデイルメンデレ市現代美術館に所蔵され恒久展示される予定です。

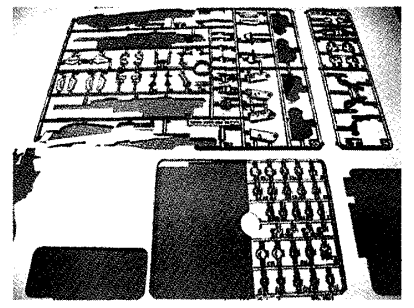
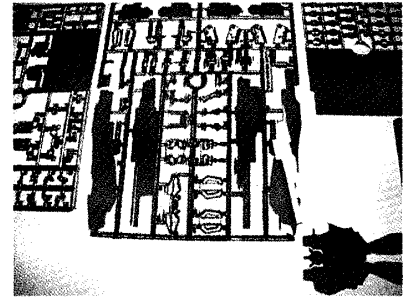
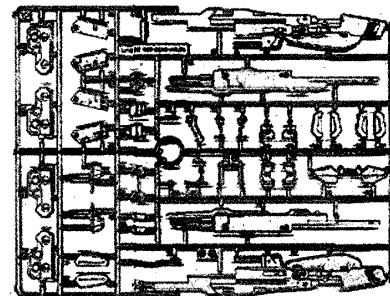
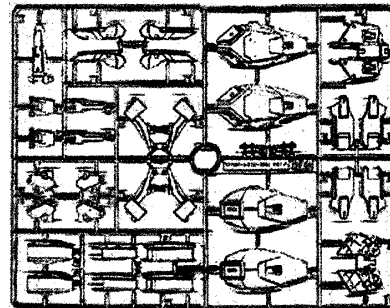
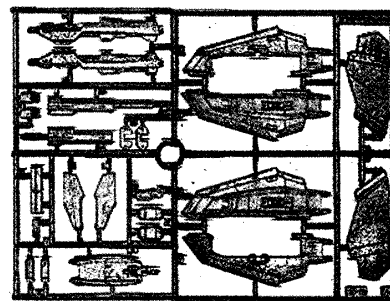
中馬 泰文

「The universe soldier/Kit-1/Kit-2」

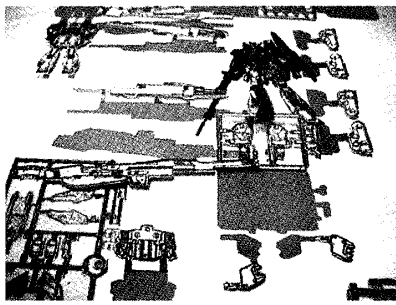
トルコ地震被災者支援「こころのパン」プロジェクト巡回展



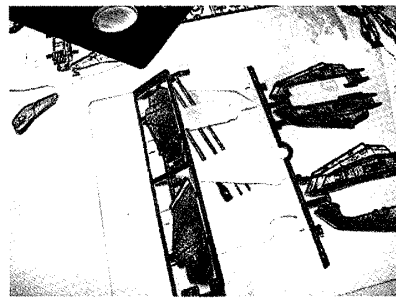
① イメージスケッチ
テーマ「Time Killer」シリーズの版画作品



③ 支持体（アルシュ紙）裏面にKITのコンピュータ処理した原図を大型プリンター（顔料系インクジェット）でプリントアウト。
イメージ（イメージスケッチ）を基本にカットし、表面に立ち起こす。この時点でKITの取捨選択が行われる。

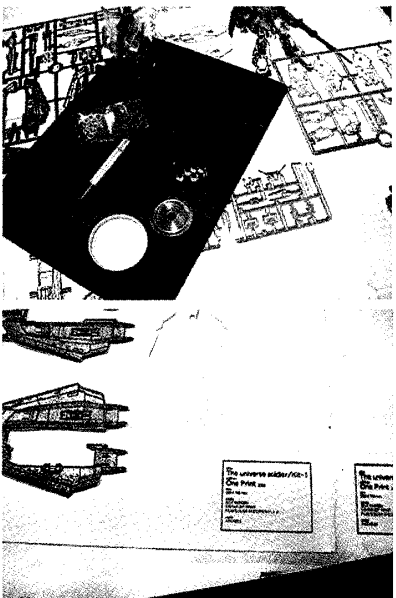


④ 表面に立ち上がった画面構成を検討。更に裏面より、立ち上がるKITを含め徐々に構築して行く。

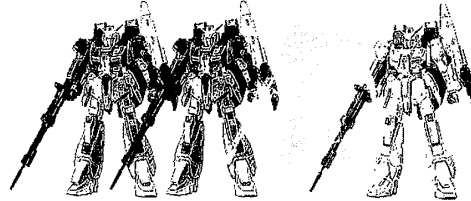


⑤ ある時点で検討期間を起き、イメージに合致しているかどうかの試行錯誤が繰り返される。

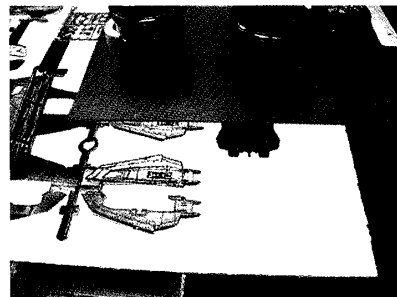
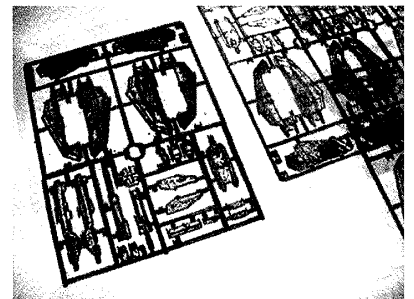
画面に直置きして、玩具の面白さを活かす配置を検討する。



② 玩具PLAMODEL-KITを原物よりスキャンする。
コンピュータ処理で入力解像度より劣化させ画像を人為的なイメージに置き換える。
さらにイエロー/シアン/マゼンタ/ブラックの4色に分版する。
分版した各色の原図をシルクスクリーンに製版する。



フィルムシートに各版を刷り上げる。

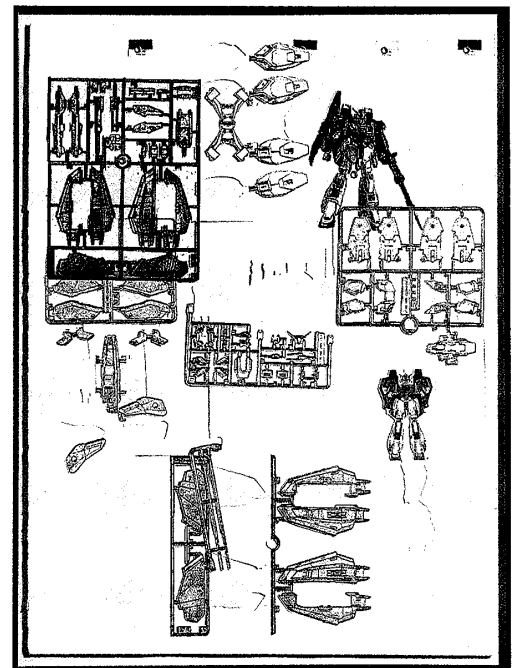


⑥ 配置が決まれば周りを切り取り、ハトメ金具にてセッティングする。

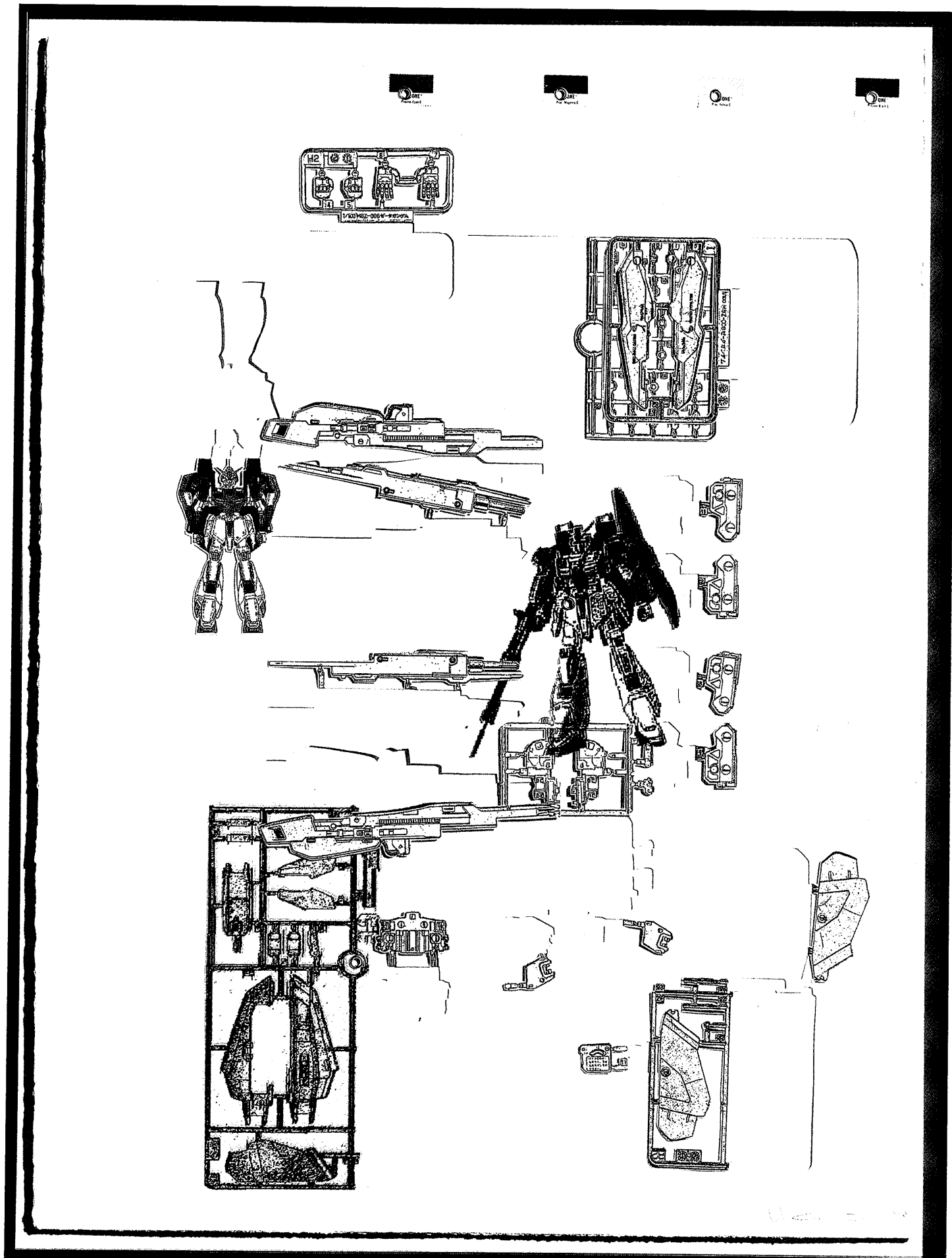
このシートは自在に動くので、可動的な位置となる。

予め用意したタイトルプレート版（シルクスクリーン）で画面右下端に刷り込む。

署名（サイン）色鉛筆にて記入し終了。



「The universe soldier/Kit-1」



中馬 泰文

The universe soldier/Kit-2 (NPO法人AICAT(国際協力アカデミー))

トルコ地震被災者支援「こころのパン」プロジェクト参加

2002年8月

SILK SCREEN CG/INKJET PRINT FILM CORLOR SPECIFIER ハトメ ARCHEES

560×760mm